

1. 整備方針

石川地区の絆を深め、学校と地域が共に歩みつながる「みんなが生き生きと活動する新たな学校」づくり

「弘前市立石川小・中学校等複合施設整備事業 基本構想」で掲げられた「学校づくりのコンセプト」「学校づくりの課題」を踏まえ、以下に4つのテーマとそれぞれの方針を策定します。

1. 夢を育む石川地区のシンボルとなる学校

■地域に開かれた新しいまちのシンボル

弘前市が目指す石川地区の「夢を育む教育自立圏」を実現するため、世代間交流等、複合化のメリットを感じられる地域交流の拠点をつくります。学校・公民館・出張所・児童館が一体となった石川地区のシンボルとし、子どもたちや地域住民をやさしく迎え入れる学校とします。

■学校と地域を結ぶ「みんなのみち」と地域交流の拠点となる「みんなの広場」

正門と北門を結び小グラウンドへもつながる学校と地域を結ぶ「みんなのみち」、地域交流の場となる「みんなの広場」を設けます。学校や地域活動のふれあいの場となり、地域と学校が一体となる計画とします。

2. 義務教育9年間の豊かな「学びと育ち」の環境

■学校全体に一体感を創り出す「学びの広場」

大階段と一体利用できる「絆ホール」と「メディアセンター（図書室）」とあわせて、学校の中心となる「学びの広場」を形成し学校全体に交流の場をつくります。絆ホールでの異学年交流、スクリーンを活用した発表・展示の場など日常的に子どもたちが集う場所として一体感を創出します。

■子どもたちの学び意欲、創造力を高める学習環境

個別学習、グループ学習、協同学習に対応できる大小の居場所を学校全体にちりばめ、ICTを活用した授業展開が教室の枠を越えて行える環境とします。

校内LANの構築、PJ・スクリーンを活用したグループ学習など、タブレット化に対応したICT環境を整備します。

■学年の成長に応じた教室

9年間の学校生活の中で、子どもたちの成長に応じた教室ユニットを配置します。まとまりあるユニットとし子どもたち同士のコミュニケーションと帰属意識を促します。

3. 地域コミュニティの核となる複合施設ゾーン

■地域コミュニティの拠点となる「あじさいホール」と「お山ホール」

公民館1階にみんなの広場とつながる多世代交流の場「あじさいホール」を配置します。地域主催のイベントや子どもたちの作品展示、体験学習の場として気軽に立ち寄れる計画とします。

2階に公民館集会室と連携し、休日に開放可能な「お山ホール-音楽室」を配置します。岩木山を眺めながら郷土愛を育み共に活動できる場となります。

4. 地域の伝統・風土を活かした安心安全で長寿命な施設

■地域の特性を活かした新しい風景を創出

石川地区の伝統や岩木山への眺望、気候・風土、伝統を活かした計画とし、敷地内外の交通動線計画や子どもたちが安全に通える登下校動線とすることで、地域の公共施設として、安全・安心で長寿命な施設とします。

■地域の避難所としての機能強化

災害時の一時避難所は、体育館と2階武道場とし、避難所エリアと学校エリアの共存と学校再開が可能な計画とします。また地域の避難所利用を想定した性能と機能の強化を図ります。

■勾配屋根と光庭を活かして光と風を取り入れる

普通教室、メディアセンター、武道場は、ハイサイド窓から自然光を取り入れる二面採光を確保します。また校舎中央に光庭を配置し、校舎全体に光と風を取り入れた明るく風通しのよい環境とします。



鳥瞰図（南東側）



外観透視図（みんなの広場）